

けやき会通信

皆さん、さようなら、お元気で！

副院長、糖尿病・内分泌内科部長 水野 有三

2月下旬の週末の夜更け、櫛会創立40周年記念誌「けやき」を懐かしく捲りながら、呟いています・・・とうとうお別れの日が来たな・・・2021年3月末をもちまして、27年間3ヶ月お世話になりました関東中央病院を定年退職し、皆様とお別れします。キャロットタワーで皆様と大合唱した前任の林正紀先生の送別会、歴代の会長の顔、創立20周年以降、5年毎に執り行われた記念行事の事、研修旅行での思い出などが鮮明に蘇ってきます。本当に名残惜しいです。



私は1994年の1月1日に当院に代謝科医長として赴任し、2000年4月からは、林部長の後任として代謝科（現：糖尿病・内分泌内科）の部長に就任しました。以後、糖尿病教室、けやき会例会には欠かさず出席し、皆様と一緒に勉強し、語り合い、時には糖尿病双六などのゲームをしながら研鑽を積みました。子供の頃、大学教授の父親から、「他人に教えるという事は、7倍の知識が必要である」と言われましたが、その通り、皆様に講義をする際には周知な準備をし、自分自身にとっても大変勉強になったと思っています。この間、櫛会の会長は、（敬称略で）森本→北村→藤井→二見→大沢→金子→矢野→児玉（現会長）と引き継がれ、創立46年目になる櫛会の歴史を繋いできました。歴代の理事の方々を含め、本当にご苦労様でしたと申しあげたいと思います。

今年度は、2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。「糖尿病において、患者教育は治療そのものである」という強い信念のもと、何とか2ヶ月に1回の糖尿病教室と櫛会例会の灯をともし続けようと努力しました。「福澤諭吉が、戊辰戦争の只中、上野で砲声が轟く中、動ずること無くウェーランドの経済学書を講述した」という有名なエピソードになぞらえ、自分も福澤翁になった気持ちでした。しかし、未知の新型ウイルス感染症が相手では、患者さんを命の危険にさらす事はできず、ついに昨年は3月、5月と2回連続で教室、例会をお休みせざるを得ませんでした。これは、櫛会46年の歴史で、初めてのお休みでした。7、9、11月は最大限の注意を払って規模を縮小して開催出来ましたが、また1月からは緊急事態宣言下にてお休みを余儀なくされています。今後は、順次ワクチン接種も進み、次年度には必ずや教室も例会も従来通り行われる日が戻ってくると確信しています。その時は、こっそり後ろの席に座って、講義や例会を拝聴している私がいるかも知れません。

4月からは、私の後任として岡畑純江先生が部長に就任されます。新進気鋭の先生で、私が赴任したときと同様、やる気にみなぎっていると思います。ぜひ会員の皆様の協力も頂きながら、より一層活気に満ちた、素晴らしい患者会に発展させていって頂きたいと切望いたします。

けやき会の皆様と過ごした時間は、私の関東中央病院での最大の思い出、宝物です。本当に長い間、有り難うございました。このコロナ禍を何とか無事やり過ごし、また元気なお顔を拝見したいと思います。今年のインスリン発見100周年記念行事や、櫛会50周年行事で、またお会いしましょう！
皆さん、さようなら、お元気で！ *Old soldiers never die, just fade away.*